

第3回道の駅あらお（仮称）基本構想等策定委員会 議事録要旨

日時：令和元年7月24日（月） 午後2時30分～午後4時30分
場所：荒尾市役所 31号会議室
議題：1. 委員会の今後の進め方及び前回までの振り返りについて
2. 機能連携型ウェルネス拠点における「道の駅あらお（仮称）」
3. 市民アンケート等によるニーズの整理
4. コンセプト（案）について
5. 施設機能（案）について
出席者：波積真理委員長（熊本学園大学教授）、山代秀徳副委員長（荒尾市観光協会会長）、高橋伸佳氏（JTB総合研究所所長）、高木洋一氏（荒尾商工会議所副会頭）、前田和隆氏（熊本北部漁業協同組合副組合長）、迎五男氏（玉名農業協同組合荒尾支所担当理事）、廣永憲昭氏（荒尾飲食店組合組合長）、吉村信明氏（荒尾酪農業協同組合代表理事組合長）、古城義郎氏（荒尾市農業委員会会長）、内田保代氏（荒尾市食生活改善推進員協議会会長）、畑添美香氏（消費者代表）、長江亮氏（独立行政法人都市再生機構九州支社都市再生部市街地整備第2課長※代理出席）、北原伸二氏（荒尾市産業建設部長）
事務局：田中産業振興課長、末永都市計画課長、田川政策企画課長、米田農林水産課長、高村産業振興課長補佐兼道の駅整備推進室長、松本産業振興課参事、株式会社マインドシェア

1.開会

田中産業振興課長が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2. 新委員の紹介

田中産業振興課長から、新委員を紹介した。

3.欠席委員及び代理出席者の紹介

田中産業振興課長から、欠席委員及び代理出席者を紹介した。

4.委員長あいさつ

梅雨も明けて、夏本番に差し掛かり大変暑い中お集まりいただき感謝申し上げます。

前回の委員会から半年も経過しているため、前回までの内容をきちんとご理解いただいた上で、本日の議事に臨みたい。本日も、皆様には様々なご意見を伺いたいと考えており、円滑な議事進行にご協力願う。

5. 議事

(1) 委員会の今後の進め方及び前回までの振り返りについて

事務局が、資料1に基づき本委員会の日程等及び第1回、第2回の議事内容について説明した。

(主な意見)

○前回の委員会では、特に、「荒尾らしさ」ということで、皆様方からたくさんの意見をいただいた。これらの意見は、整備計画に十分に活かしていただきたい。

(2) 機能連携型ウェルネス拠点における「道の駅あらお(仮称)」について

事務局が、参考資料1に基づき南新地地区ウェルネス拠点基本構想(案)について説明し、引き続き、資料2に基づきウェルネス拠点における道の駅の位置づけ、ウェルネス拠点と道の駅における検討事項の棲み分け等について説明した。

(主な意見)

○様々な機能が連携しながら進んでいくことでウェルネス拠点が形成されていくということを説明いただいた。ウェルネス拠点のコンセプトが「有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお」ということで、本委員会で「荒尾らしさ」の観点として意見の多かった「夕陽」が、上位計画のコンセプトとして反映されている。

○「食」の特徴づけが重要で、食は外せない。そのような部分の議論を本委員会で深めていきたい。

(3) 市民アンケート等によるニーズの整理について

事務局が、資料3に基づき市民、市内関係団体、道の駅利用者等の道の駅に対するニーズ等を整理・分析した内容について説明した。

(主な意見)

○様々な対象者に対して行われたアンケートの結果をまとめて報告していただいたが、この結果を見てもやはり「食」である。「食」の部分に期待されているのだということがわかった。

(4) コンセプト(案)について

事務局が、資料4に基づきコンセプトの考え方を説明し、コンセプト(案)を提示した。

協議の結果、承認された。

(主な意見)

○《有明の海と小岱の山で紡ぐ「食ものがたり」》、この副題が道の駅あらおを表しており、キャッチーであると感じた。

○「食」にフォーカスして仕掛けていくということであれば、道の駅・スーパー・飲食店など、周辺の市町村も含めて、近いコンセプトで運営している施設は沢山ある。周辺の競合分析を行い、整備の方向性を強化していくと構想の精度が更に高まり、施設機能の具体案を検討する中身にもつながってくるのではないかと感じた。

○コンセプトについては、上位概念を踏まえ、また、全体を包含していて素敵だなと感じたが、敢えて言うと、「しあわせ」という概念が具体的にどういうことなのか、「しあわせ」と「元気」の定義のようなものが「食」で説かれているとわかりやすいと感じた。

○「元気」というフレーズは連想できるが、「しあわせ」は非常に良い言葉であるが、「食」を通じての「しあわせ」というものはどういうことなのか。

【事務局】

⇒例えで言うと、「食」を提供するシチュエーションとして夕陽を見ながらおいしい食事ができれば幸せを感じられるのではないかと。または、初めて食べるものがいれば、それも幸せにつながるのではないかと。

「元気」については、とても体に良いメニュー等を提供することで、皆さんが健康になっていくということも元気につながるかと考えている。

○マーケティングの目的として顧客満足ということが言われていた。お客様に商品の購入や体験により満足してもらうことが目的としてあったが、現在は、満足から感動に変わってきている。人は、期待以上のものを提供された時に感動し、心がワクワクする。そのような部分は幸せにつながるのかと感じた。感動体験として、ここでしかできないことを「食」を通じて提供するというのもあるのではないかと。

○生産者等々からは出荷できるという意見もあったようであるが、荒尾市だけの生産量ではまず品物は揃わないと考えている。協力してくれるとは言っても実際は難しいのではないかと。ますます高齢化し、生産者も減っていく中で、どうやって品物を集めるのかというのは大きな課題、大変な問題ではないかと。

【事務局】

⇒道の駅あらおがゲートウェイであるという機能性を考えると、有明海全域、あるいは、熊本県全域の特産品を考えられることが一つと、当然、品揃え確保のために

本市の農水産業の振興を図ることも行政の課題としてやっていく必要がある。物産だけではなく飲食・テイクアウト等に関しても「荒尾らしさ」というものは「食」の表現として出していけると考えており、その部分も充実させるなど、総合的に「食」というものを出していければと考えている。

また、仕入れ等については、ヒアリングの結果にもあるとおり、スーパー等との差別化ができるのかとあるが、その部分もきちんと押さえていく必要がある。

現時点とすると確かに量は足りないという現状がある。できる所から皆で知恵を出し合っ取り組んでいき、足りない部分については、どこから仕入れをするのか、どう魅力を付加させていくのかなど議論させていただきたい。

○ウェルネス拠点の全体構想では、ゾーンごとに記載されているが、このゾーンを残したまま進めていくのか。

【事務局】

⇒南新地地区 35ha の中で様々な都市機能を誘導するためにエリアを分けている。馬事文化ゾーン、運動・商業・住宅ゾーンなど、今後検討して行く中で変更する部分はあるかもしれないが、基本的には、お示したエリアの配置で考えている。

全体的な土地利用の中で、どのように配置していくのか、様々な部局と検討を進めていきたい。

○緑ヶ丘地区周辺が整備されてことによって荒尾駅周辺が衰退してしまったという状況がある中で、南新地地区が整備されていけば、今度は緑ヶ丘地区周辺がどうなるのか。緑ヶ丘地区周辺が衰退していくことにならないかと心配している。市外から沢山人が来て賑わえば良いが、荒尾市民だけでは難しい。

【事務局】

⇒本市では、荒尾駅周辺と緑ヶ丘地区周辺を2つのエンジンとして、まちづくりを進めている。沿岸部であり、JRがある、そのような交通機能を有する荒尾駅周辺を再度復興させることにより、緑ヶ丘地区周辺を牽引していくようなまちづくりができればと考えている。決して駅周辺だけが栄えて、緑ヶ丘地区周辺が衰退するということがないように、この2つのエンジンのバランスを取りながらまちづくりを進めていきたい。

○荒尾市は、農業の生産額が県下でも下から数えられる所にあり、農産物の充実が厳しいところであるが、数年後には若手農業者がかなり育ってくる。国の支援による新規就農の制度を活用し、十分な土地を提供して、多種多様な農産物、露地野菜も含めて、道の駅に提供してもらおう計画である。また、親元で農業を承継する方も増え、作物も充実し、後継者も育ってきた。厳しい状況ではあるが、いい方向に転

換してきている。とにかく後継者がいないと、30年先に道の駅はないため、今の20歳代の方を巻き込んでいかなければ難しい。市にも、色々と支援をお願いしたい。

○農業、水産業に色々と課題がある中で、それをどうやって乗り越えていくのかというのが重要である。やる気になればやり方はあるのではないか。そうやって、我々の街を活性化していかなければいけない。若い方が就農しているという話があったが、非常に心強い言葉である。

○全国の道の駅でも最後の方にできるであろう道の駅であるため、夕陽が見える道の駅、有明海沿岸道路におけるサービスエリア機能としての道の駅、ゆっくりと過ごせる道の駅、絶景の道の駅として、市民もインバウンドを含む来訪者も楽しめる道の駅にしていきたいとつくづく考えた次第である。

○ともに協力し、九州でも一番の道の駅になるよう頑張っていきたい。

(5) 施設機能（案）について

事務局が、資料5に基づき施設機能（案）について説明した。
施設機能について意見交換がなされた。

(主な意見)

○レンタカーやレンタサイクルの施設機能案とあるが、今後、水鳥・湿地センターの開設が予定されており、そこまでレンタサイクルを利用して沿岸を海風にあたりながら走りたいといったことも想定される。走る時間や距離を把握しているか。

レンタサイクルの導入があるのであれば、道路整備も必要になってくる。事故等が発生すれば市の責任も問われかねない。水鳥・湿地センターまで自転車で行かれないと思う方も多いと考えられるため、検討願いたい。

【事務局】

⇒市屋付近の急カーブや一部漁港は狭い橋を渡るか遠回りするということになる。時間的には15～30分、距離的には3～4km程度ではないか。導入が実現すれば、当然、使いやすい動線の確保・安全な自転車道路等について検討していく。

○情報発信機能におけるAIの活用とは、どのようなものをイメージしたことか。

【事務局】

⇒AIやIoTなど、これから先Society5.0の時代が到来するという前提がある。ウェルネス拠点基本構想（案）において各計画の体系図を記載しているが、そこ

に、IoT等の先進技術を用いたまちづくりとして、スマートシティの概念をお示ししている。スマートシティという概念は、例えば、施設におけるキャッシュレス決済、電動キックボード、自動運転バス、相乗りタクシーで移動することなど、技術は更に進展している。現状として具体的にこの機能を入れるというものはまだないが、公共施設にしても、民間施設にしても各々の施設でスマートシティの概念というものを意識しながら、全体を組み立てていきたい。

○今後、色々と検討されるだろうが、クルージングや船を置く場所、カーブなどができればおもしろい。

○食という切り口で考えた場合に、まず消費者の志向性に沿ったものでないと、全く意味がない。

○健康というものは食だけで成り立つわけではなく、運動・栄養・休養の3要素になっている。

例えば、運動と食の機能性メニューを使った考え方があり、リラックスに近い食をどこまで提供できるのか、休憩の機能としっかり組み合わせをすることも考えられる。目に見える健康食材などもあるが、具体案に入る前に機能性を検討していくとアイデアが広がっていくのではないかと

○交流施設であるため交流機能を付加していくとよい。健康・教育的な要素を含めた料理教室のようなものを提供してもおもしろいのではないかと。色々な需要が吸収され、特定保健指導の対策にもつながるのではないかと。物販等だけではなくニーズの汲み上げもできると考える。

○6次産業化となると人も時間もお金も足りないが、体験交流であれば可能となる場合もある。

○南新地地区の堤防が相当な高さになるが、道の駅から夕陽や海が臨めるのか。

○施設機能を検討するにあたっては、ウェルネス拠点全体としての特徴が夕陽である以上、景観が楽しめるようなつくりというものは十分検討していく必要がある。

○子ども食堂というものがあるが、与えるだけではなく、子ども達と一緒に料理が楽しめる場所があったらよい。料理というものは認知症予防にもつながる。

○ボランティアとしての活動を基本としており、時々体験交流等であれば、協力できる。

○健康というものは心の健康もある。「こんなにおいしいものが食べられてしあわせだな。」と感ずることができれば、心の健康になる。

心の健康として、皆と楽しい時間を過ごすということもあるのではないか。

○独特の体験があると差別化につながり、外から来た方に対しては非常に強みになる。そのような体験からは感動も生まれるのではないか。独自・本物を磨いていくとよい。

○アサリなどは、知る人ぞ知るということは知らなかった。市民も知らない独特の素材もある。

○アサリについては、今年は非常によく獲れているが、地元の流通に回せない現状がある。関係団体と協議し解決していく必要がある。

○飲食施設として色々な機能案が示されており、これを全てとなれば大変なことではあるが、あると魅力的でもある。

○テナントエリアも必要になると考えている。一般的なものではなくきちんと専門家にテナントで入ってもらった方がよい。

○飲食店舗においては、個人店舗の出店は人材確保等の面で難しい。週末限定のマルシェなどとなると、協力してもらえる店舗はあると考えている。

○道の駅であるならば、荒尾産のものを販売してほしいし、外から来た方にも荒尾のものを知ってほしい。

○夕陽を見ながらの食事というものを夢描いているため、是非実現してほしい。

○関係団体におけるヒアリングでは全団体から協力可能であると示されているが、問題は、経営である。出店・出荷の意向を示した団体の中から経営してもらいたい。

7.その他

田中産業振興課長が、次回の委員会開催については、9月下旬に開催する意向を伝えた。

8.閉会

田中産業振興課長が、閉会を宣言した。